

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 高屋分教会神殿

大正12年10月13日 奉告祭  
高屋は往古の国道があり、かつて宿場町として栄えた  
(8月10日撮影)

## さあ！おたすけ 祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード 集計：86,781枚

平成27年6月21日～7月20日

累計：1,120,031枚

一万人のおぢばがえり

集計：235人

累計：4,241人

平成27年 1月1日～7月20日

立教178年  
8月号



子ども達に聞かせる神様の御守護

テッチャンシアター開催

7・21 祭典後

少年会

7月21日(火)、平日ですが夏休みに入ったという事で、少年会笠岡団では大教会祭典終了後、団長より参拝者に子どもおちばがえりの参加案内があり、その後、「テッチャンシアター」を開催させて頂きました。今回の担当は少年会委員の丸山です。

『神様の御守護』まだ見ぬ小さな友

達へ』という本より(世界の人々)というページを簡単にお話ししました。

たんぼの綿毛を吹くとパーっと風に乗って右へ左へ、前へ後ろへ...やがて落ちた所からまたたんぼが生えます。散り散りになってまた咲き始めるたんぼ、でも元はひとつのたんぼからでした。

人間の世界もそうです。遠い昔おちばの「かんろだい」という所から人間は始まりました。今では日本はもとより世界へと広がった私達ですが、元はひとつの所から始まったという事。私達はみんな神様の子でみんな兄弟です。

仲良くしようネ!! 神様はきつと仲良くする私達をご覧になって喜んで下さるからICU

「子どもおちばがえりも近づいていきます、みなでおちばに帰らせてもらいましよう。」と委員が少年会員に向けて色取り取りの衣装を身に付けてアピールさせて頂き、昼食の後、ご褒美として冷たいかき氷を出しました。

いよいよ暑い夏休みに入りました。皆さん、身体に気を付けて、又来月も大教会で待っています。

(少年会委員 丸山 哲子)

よふぼく勉強会開催

テーマは「親の後を

子がつなぐ」

7月月次祭後

育成部

川島郷分教会長 香取雅人

7月21日、大教会会議室にてよふぼく勉強会が開催され、その講師を務めさせていただきました。後日「かさおか」に掲載すると言われるので「その前に記事を見せて下さい」とお願いしたら、「自分で書いてください」と返されました。やぶ蛇でした。というわけで講師が直接レポートを書いておきますので、不自然な部分はお許しください。以下は勉強会での講話概要です。

島根のある教会での講話後、直会の席上で蕎麦そばの話題になり、「私はどうぞんはなんとか打てるんですが、蕎麦は難しくてうまくできません」と言ったところ、「そりゃあ、つなぎが足らんだが」と、ある役員さんに鋭く突っ込まれました。今回のタイトルは「親の後を子がつなぐ」です。つなぎが足らんだがの会長には少し荷が重いので、難しい話はせずに、自分の経験したことだけを話させていただきます。



ユーモアあふれる勉強会に

私たち夫婦には4人の子供がいます。臨床心理士、古生物学研究者、会社員、国際貢献活動従事者とそれぞれの分野で元気に通らせていただいています。そんなに熱心ではありませんが、みんなお道が好きです。特別な子育て論があったわけではありません。ただ、毎月の月次祭には学校を休んで勤めさせていただきました。「稿本教祖伝逸話編132-おいしいと言うて」にあるように、まず長男に得心してもらいました。信者さん方の子どもさんたちにお道のことを伝えるときにもまず一番上の子から得心してもらおうようにしてい

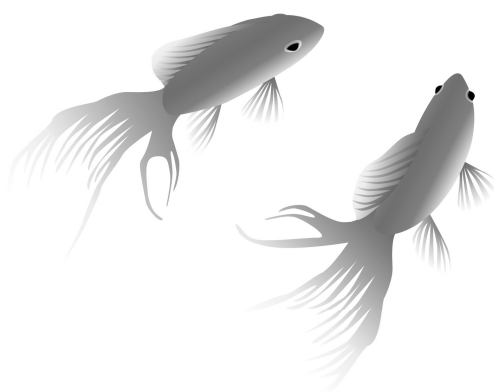
ます。もうひとつ心がけたのは、我が家にはおじいちゃんがないので、おばあちゃんを大事にするということぐらいいです。

さて、私は柔らかくそうに見えますが、実は意固地で理屈が多く、「あんたちよつと変わつとるなあ」と言われても喜ぶようなタイプです。その私が、にをいがけ・おたすけに励む「固い意志」を持てばよいのに「固い石」を持てしまい、尿路結石になりました。それは7mmもあるような大きな結石だったのでESWLをしてもらいました。ESWLとは体外衝撃波結石破碎術の略称で、1分間に90発の衝撃波を5分間撃ち続け結石を破碎する治療法です。これを2回も受けましたが、石が硬く、治りませんでした。ところが家内が月次祭にお供えしてくれたご神水とおさづけによって、翌日、2つに割れた結石がカランと排出されたのです。えらいもんだと感動しました。

こんなこと以外にも、くも膜下出血で入院されたようぼくが、奇跡的だと医者が驚くほど回復し、後遺症もほとんどない。大腿骨折した90歳近い高齢者が完治し、杖を使わず元のようにブドウ栽培などの農業に復帰。不登校

の生徒のおたすけ、アルコール依存症の青年のおたすけなどに関しても鮮やかなご守護をいただき感激しています。

ただ残念なのは、身上や事情の上にな素晴らしいご守護をいただいているにもかかわらず、おつとめ人がなかなか増えないことです。これは私の不徳の致すところであるので、自教会のようぼく・信者の丹精に心を配ると共に、現在教会で目標にしている「三年千日3000回のおさづけ」の取り次ぎを達成できるように心のねじを巻き直し、にをいがけ・おたすけに励む「固い意志」を持ったようぼくになりたいなあと念願しています。という内容の話を致しました。



「こどもおちばがえり」を振り返って

「笑顔ひろがれ！ たすけあい」をテーマに、7月26日から8月4日までの10日間に亘り、「立教178年こどもおちばがえり」が賑やかに開催されました。

期間中、親里は連日厳しい暑さに見舞われ、35度を超える「猛暑日」が続きました。

今年も年祭活動仕上げの年、「おちばを賑やかに」、また、「一万人おちばがえり」という旬の声、旬の動きに、少年会としてなんとか応援させて頂こうと、帰参目標を2000名と定め、一人でも多くの人におちばに帰っていただくようと、4コースのおちばがえり特別便を実施させていただきました。

大教会では26日から、各ブロック、教会単位での帰参が次々と続き、詰所では連日、子供たちの明るく元気な声とともに、活気溢れる毎日でした。

今年も育成部による朝のおつとめ、目標発表、ラジオ体操から一日がスタートし、ケジメのある日課となったようです。

また、毎日夕方5時より育成会長様より、帰参の隊に感謝状が手渡されました。

恒例の模擬店は5回開催され、フライドポテト、かき氷、たません、射的、スーパールボールすくい、輪投げと、夕方の一ときを友だち同士で楽しんでいました。

おなじみのクイズも好評で、詰所のあちこちで楽しく相談しあう姿が見られました。

KOGの皆さんの「よろこばずには帰されん」の心が伝わる詰所行事となりました。

また、「むつみ鼓笛隊」は、直轄福山・高屋の3隊が日頃の練習の成果をお供え演奏しました。

今年も大過なくつとめ終えさせていただきました。今年も大過なくつとめ終えさせていただきました。ただ、来年もおちばに帰ってきた子供たちに、喜びを一つでも多く持つて帰ってもらえるようにと思います。

こどもおちばがえりに当たり、大勢の皆様のお力添え、お心寄せをいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました◎

(少年会団長 武内正美)



# 詰所クイズ

## 中学生

【1】サイコロを2個振って、出た目の合計が7になる確率は、何分の1でしょう？

【答】 6分の1

【2】一般的にカタツムリのツノは何本でしょう？ ①2本、②4本、③6本

【答】 ②

【3】ことわざ「きゆうそ猫をかむ」猫をかんだ生き物は？

【答】 ねずみ

【4】第二次世界大戦終結直後、日本にやってきた連合軍最高司令官の名前は？ ①ザビエル、②ゴルバチョフ、③マッカーサー

【答】 ③

【5】三平方の定理を発見した古代ギリシャの数学者は誰？ ①パピロフ、②ピタゴラス、③アリス

【答】 ②

【6】四国で一番面積が広いのは高知県。では九州で一番面積が広いのは何県？ ①福岡、②熊本、③鹿児島

【答】 ③

【7】「学問のすずめ」で人間の平等と自立を説いた、1万円札の肖像画としても有名な人物は誰？

①板垣退助、②福沢諭吉、③夏目漱石

【答】 ②

【8】ポタン肉といえばイノシシの肉。ではサクラ肉といえば何の肉？ ①馬、②鹿、③熊

【答】 ①

【9】2008年11月アメリカ大統領選挙で黒人では史上初のアメリカ大統領に当選した人物とは？

①オバマ、②ブッシュ、③レーガン

【答】 ①

【10】バレーボールでスパイクのため、のトスを上げる役目の選手のことを何という？

【答】 セッター

## 小学校高学年

【1】思いついた時に飲む飲み物は？

【答】 ソーダ

【2】度胸の有る人が配る新聞は？

【答】 夕刊(勇敢)

【3】当たりとハズレがある時間は何時？

【答】 9時

【4】レモンが負けてバナナが勝ちのゲームって何だ？

【答】 しりとり

【5】カンでも木や火や水が入ってるカンは？

【答】 一週間

【7】わきくけこって何県？

【答】 台風(ムロ)

【8】さんにんの日って何？

【答】 香川県(か)が「わ」

【9】上から読んだらようかいの名前、下から読んだら手にはめる物は何？

【答】 てんぐ

【10】弟には2つ有って、妹には1つしか無いもの何？

【答】 「と」の字

## 小学校低学年

【1】ぼうしの中に入っているどうぶつは？

【答】 うし

【2】アナがあるのに水にうかぶモノは？

【答】 うきわ

【3】からっぽの巣(す)にすんでるトリは？

【答】 カラス

【4】あまくてつめたいベツトは？

【答】 シャーベツト

【5】サッカーにもマラソンにもあるものは？

【答】 ゴール

【6】われるとコッソリ笑う玉は何？

【答】 くす玉

【9】たのしいけど、みんながにげていくあそびは？

【答】 鬼ごっこ

【10】タタタって言うてるひとはダレ？

【答】 サンタ

## 当選者

### 中学生

福山 門田唯楽  
福山 前迫花梨  
福山 住田優子  
廣町 宮本やわら  
神村 前田葉月

### 小学校高学年

笠岡 坂本小春  
大恵山 塩飽まお  
出雲 武田恭葉  
多古浦 山崎優子  
錦ヶ原 佐藤銀次

### 小学校低学年

高屋 倉田ちはる  
稲倉 上村莉菜  
上備 田淵よしろう  
河佐 宮本みずき  
葦沼 水上こうたろう

# 第73回 英語講習会 開催

8・6〜8 大教会

海外部



英語の勉強を通して教会に寄っていただく講習会は教内でも珍しく、回を重ねて今年で73回目を迎えることとなった。長い歴史の中では人数や参加対象もずいぶん変わってきたが、近年は英語学習がカリキュラムにも入った

小学生、それも4年生以上大人までを対象に行っている。

今年は小学生が17人、大人が4人と幅が広がった。部活などでの試合が日程と重なった中高生の参加がなかった。

中でも大人クラスの布教英語は積極的に学習に取り組み、信仰問答も繰り広げられる授業になった。小学生クラスも3クラスに分かれ、それぞれの目標を設定して達成できるプログラムをそれぞれのクラス責任者の人たちが上手にそれぞれの能力を導き出した。

最終日のコンテストでは英語を使った自己紹介を中心に、個性を生かした英語発表がなされた。

実践に使える英語を二日間で習得するのは難しいが、実際に使える場面に遭遇した場合に出てくるように願った講習会である。

この講習会を通して少しでも英語が好きになる様に。英語を通して教会に繋がれるように。英語を通して国際的な考え方の出来る人達が育つように。未来の海外伝道要員が育成される様に。さまざまな思いを持ってこれからこの講習会を続けていければと思います。

今年も個性豊かな多くのスタッフの先生方。食事をおいしく作ってくれた。さった婦人会の方々。陰日向とそれぞれ働いてくださった方々のおかげで講習会を無事終了することが出来て本当にありがとうございます。紙面を借りて心からお礼申し上げます。  
(海外部長 上原志郎)



## タンザニア おたすけプログラム

雲東分教会 三代 もとい  
今回で7回目の笠岡タンザニアおたすけ訪問にはじめて参加させていただきました。私は親里高校卒業後、天理教語学院(TLI)でポルトガル語を勉強

させてもらい、研修で1ヶ月、お金を貯めて半年間は自分で、ブラジルに行きました。海外が好きで旅行でも色々な国に行ったりしていますが、アフリカは行きなかった国の一つでした。  
この笠岡タンザニアおたすけのプログラムは、ただの旅とは違うことはわかっていましたが、いざ出発が近くになると、私が行く意味だったり行つて何が出来るのだろうか、そういった不安はありました。

今回は上原志郎先生、芳井の佐藤先生と初めて行く私の3人でした。

行く前に笠岡大教会にてタンザニア会議があり、タンザニアにお道が繋がったキツカケとなるタンザニア人初のようなぼく・マユンガさんと志郎さんの出会いから10年、そして今回7回目となるタンザニア訪問、この10年の間に色々なことがあったと初めて知りました。

——私のような教会の子弟(?)でも、社会で普通に働く状況では、自教会のことぐらいい、または笠岡大教会・上級の教会の全体が関係してくる大きな活動などはかろうじて知っていますが、タンザニアについては伝わってないというか、やはり特殊な活動なのだなあ

と。私は若い人にこそこの海外との繋がり・活動は面白いと思います。——話がそれましたが、みんなで会議をした際、はたしてタンザニア布教、続けて行くべきかどうか、というそんな議題や疑問、これからどう働かせていただくべきか、あらゆる可能性などの意見交換、意思統一をさせてもらいました。

- ・ 毎年物資を送る支援をし、現地へも足を運ばせてもらいおたすけ、皆様からの募金などを現地の孤児院やNGOなどに寄付をさせてもらう。
- ・ 天理教として、はたして意味があるのだろうか？
- ・ お供えがあがらない地で布教をする意味があるのかと。——これは私が行かせて貰ったペルーの教会でも同じ問題はあったなと思ひ出しました。まずはお供えという概念が無い、価値観や文化・考え方の違いもあり、日本式そのままでは難しい部分があります。思案してみましたが布教をする、元はじめられた親の教えを知ってもらう意味が早々にお供えへの対価ならばなんのための教えなのか。

皆さんにアフリカ、そしてタンザニアという国について少し紹介させてください。

タンザニアはアフリカの地図を見ると右側の大体真ん中辺りの海に面する位置にあります。日本からは飛行機で乗り継いで約22時間、時差は6時間あります。

そしてアフリカという国は貧しい、危ない、紛争もたくさんあるというイメージだと思いますが、まずアフリカの成り立ちに関係しているのだということをおも今知りました。

——元々アフリカには何百という文化も言葉も違う民族が住んでいました。

そこにヨーロッパの人たちがこの大地を見つけ、アフリカの人々を奴隷にするという時代がはじまり、資源が豊富な大地の侵略、この際、フランスやポルトガル・イギリスなど各国が文化・民族を無視して決めたいわゆる国境が現在の約54の国につながります。自分たちで決めたわけじゃないので無理やり他民族・他文化の人たちが一緒になつてしまい、言葉が通じないため意思の疎通が出来ず、争いになり、それが現在でも深刻な傷跡や問題として残る民族紛争の元となります。自分に置

き換えて想像してみましたが、もし中国や韓国と同じアジアだからと一緒の土地になっていたら、言葉や文化も違うのに仲良く出来たか……。

各国が侵略するだけして何も教えず、返還となったため教養や、国として発展するための知識などが無いまま、民族間の隔たりがあるまま、それが約50年前という最近のことなので、アフリカはまだまだ発展途上なので。——

それを踏まえ、タンザニアという国。約50年前に統治から独立して1つの国になるとき、当時の大統領が何十という民族の言語をスワヒリ語と決めました。

そのため他と同じく多くの民族からなるタンザニアは第一言語が統一されたため意思の疎通ができ、現在に至るまで紛争がなく、みな仲が良いのだそうです。

実際にある程度の覚悟をして現地に行きましたが、驚くほど怖いと感じることはありませんでした。危ないところに積極的に行かなかつたからかもしれないですが、少し街をあるいてみて

もそう感じました。ブラジルの方が全然怖いくらいです。まず、銃社会では無いこと、物質的な貧富の差はあるが、精神的な貧富の差というのは他の発展途上の国に比べて無いように感じるくらいです。そこがずっと私的には不思議でした。初めての感覚というか。そして、人が穏やかであること。穏やかで親切、人懐っこい。

タンザニアの宗教は、大体ですが土着宗教20%、キリスト教40%、イスラム教40%ですが、見事に宗教もうまく共存している、お互いを受け入れている感じでした。なので布教もしやすいなとも感じました。



結果、私の感想は、孤児や病気・貧富の問題はあるとしても、この国の人、前向きな考え方に心が豊かだなど、とても良い国だと思いました。他と比べてではなく未来を見た時に楽しみだなと感じられました。

そして、タンザニアにおける笠岡、天理教についてですが、約8年前にタンザニア人で初めてのようぼくが笠岡より誕生しました。この方は国のお医者さんで何個もの孤児院を統括し、みんなからはドクター・マungaと呼ばれています。

日本でたまたま志郎さんと出会い、その時天理教を少し聞いただけで、後々自分で天理教のことを調べて、これは本物だと確信しようぼくへ。わたしはこれを聞いてビックリしました。マungaさんというある程度権力を持たれた方、教養のある方が一番にお道につながるといことは他では無いのではないのかなど。

大げさかもしれませんが奇跡くらいに思えます。それはこれも志郎さんという海外でずっと布教をし、徳を積んで来られたからなのだとこんなペーペーな私でも感じました。

そして現在4人、今月もうひとりのようぼくが誕生し、5人のようぼくがタンザニアにいることになりました。それもそうそうたる方々です。

それさえ知らなかった私は本当に驚きました。

実際に会い、話をし、天理教についてどう思っているか話を聞かせて貰うと、それぞれにしっかりした思いがあり、純粋な信心を持たれていました。

家がたまたま天理教だったからと言いかねない私とは状況も理由もすっかりしているように思えました。偉そうですが——安心しました。

タンザニアには教会・布教所すらなく、お道・教えの情報さえも届かない状況で、年一回の訪問でここまで切れずに繋がっていること自体が私はすごいことだと思えます。

今回もマungaさんの繋がりを中心におたすけで訪問させていただきましたが、色々な方がおたすけを待つておられること、天理教のことはよくわからないが、このおさづけというのは凄い、だから私は信じるし、教会ができればいちばんに御用させてもらう、という方まで。教会、場所が出来ればこちらが訪問していかなくてもみんな教

会にくるよ、と。わたしたちはずっと待つていると。そういった想いを頂きました。同時に教祖がしっかりついてくださっているのかなあと感じずにはいられませんでした。

確かに、既にあちらの問題ではなく、こちら次第なのだなど、笠岡としてどう動かしてもらうか、実際にどうなるという結果は神様におもたれして、どうしたいという意思、方向性と動きをみせないといけないと思えました。

今回は私自身おたすけということに関して初心にかえることができ、タンザニアという国に、お道の者として、ひとりの人として関わらせていただくことができ、私の中でもありがたい大きな経験となりました。

それもこれも一緒に行かせてもらった志郎さんや佐藤さんに、大変お世話になりました。

現地ではようぼくのマungaさん、そして9日間行動を共にしたようぼくのステイブ、他、快くわたしたちを迎えて下さったタンザニアの方々に心から感謝したいです。

人を助けて我が身助かる。自分たちが助けているようでその何



倍も大きなものをいただき、助けもらっていると実感させてもらったタンザニア訪問でした。

私の個人的な目標は笠岡の方に、特に自分のように(?)若く、教会の繋がりが遠くなりがちな人たちにタンザニアで繋がる活動のことを多くの人に知ってもらい、巻き込んで、関わってもらい、おたすけ、布教という難しいように思いますが、この繋がりを通して助け合いというのを感じ、より天理教、教会につながってもらえたらなあと思っています。

最後に笠岡の皆様、タンザニア活動を支える皆様に心より感謝しています。ありがとうございました。



# 談話室



## 苗を有難う

匿名

玄関の所へ、よく花の苗、野菜の苗や色々と揃ってあるのを見かけます。大教会へ参拝された方に「どうぞお持ち帰り下さい」との親切な又心こもる品々が、並んでいることがあります。

昨年十一月でしたか、玉葱の苗があり、見れば五十本束の赤玉葱でした。私は黙って頂いて帰り、早速植えました。――(以前、)種を蒔いて苗を作りましたが、手入れを怠った訳ではないのですが、不良品でした。苗半作とよく聞きますが、苗は収穫に影響があります。当然のように全く小さいものばかりでした。――頂いた苗は、少し遅い位に植える事になりましたが、手入れも余りしなかったのに、今までこんな立派な玉葱作った事がない程のものです。

のだと思い、紙上で一言お礼申し上げたく思いました。教会と布教所へ配られる「かさおか」ですので、持って来て置いて下さった方が、読んで下されば私の気持ちが通じます。

その都度、帰る時はなくなっている品々ですが、必要に応じてよろこぶのは私だけではないと思います。五十個の玉葱がある間中、お心使いに感謝し乍ら、戴きます。有難うございました。

## 上げ底と底上げ

稲富士分教会 須毛田 英 尋

両者は似て非なるものの様に思える。前者は実際より内容を多く見せるため底を上げて見た目を誤魔化す見せかけ行為。後者はおおよそいい意味に使われる。それは今の底の状態を憂いそのレベルアップを図る行いで、底辺の実情を十分に把握していないとできない。

底を我欲のため利用したのが前者で底に十分な同情と理解と配慮を行うの後者で、底辺の苦しみを本当に判った人にしか出来ない。

頂点とは底辺があればこそ。頂点が安定するためには底辺が広ければ広い

程重心が下がり安定に繋がる。即ち広く底辺に十分な思いをかけるという事が必要ではないだろうか。成長を目指す国や地域はそこを気をつけなければなるまい。

霊峰富士はその姿が誠に世界一美しいと言われるのは、高さもさる事ながら、底辺の広がりやすさぶる良く、それによる稜線のなだらかさはなんとも言えない美しく和やかで清らかである。頂上は30度の角度にて、底辺は段々と限りなく水平に近づき、その裾野で

多くの人々がその恩恵を受け暮らしている。東京と大阪の中間にあり、海からでも陸からでも眺められる位置にあるとは、神の思惑と想うのは思い過ぎであろうか。それはこの姿を手本にして世造り国造りをしてほしいとの暗示ではないだろうか。

他方、人は多く自分を大きく見せよう、良く見せよう、高く見せようと学歴、地位、財力、家柄等を土台に自分を持ち上げようとするものだ。しかし、神様に受け取って頂けるのは誠実の部分だけである。それを思うと人間はあたかも上底な自分を造り上げている様なものではないだろうか。

身上・事情によつて底を見せようと

なされる親の思いは、底からはい上がるたくましさや期し、そのためいったん底に落とし、心の底をためておられる様な気がする。

にこり水では底が見えないと同様、心もにごつていては心底が見えない。そこを見たくて、また見せたくて身上・事情によつて心のほこり、にこりを掃き出そうとなされる。いつも心の底が見たいのが親の心。胸三寸。この道は心を澄ます道と申される。谷底せり上げと、底上げのため教えていったん貧乏のどん底に落ちきられた我々のひながたの親。飲み水になれる迄自分を落とす事が道の子の道。

## こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽7月19日付「時報俳壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

どくだみの花咲く家に回覧す

▽8月25日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

野良猫が仔猫をつれて庭先を

横切りてゆく梅雨の晴れ間を

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)



# 七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には 一列の子供かわいい 一条の親心より一人一人に心の自由をお与え下さると共に 天然自然のお働きを通して身体のお陰によりまして 日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々常に親神様の御守護お働きを身体に感じ取らせて頂き 御恩報じを念じつつたすけ 一条の御用の上につとめ励ませて頂いております 分けても今は年祭活動仕上げの年に当たり一人でも多くの人をおおちばに連れ帰ろうとにをいがけおたすけにと邁進させて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し戴いた御祭日でございますので おつとめ奉仕人一同喜び感謝の心も一人に明るく 陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて七月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には 梅雨もあけ夏本番を迎えて暑さ厳しい中にも関わりませず今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げると共に八万六千七百八十一枚のおたすけお願ひカードを通してより一層のたすけを願う皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年も子供おちばがえりが目前でございます おちばでは「帰ってくる子に喜ばさずには帰されん」と受け入れ 準備を整えて下さっておりますので その思いに少しでも応えさせて頂きたいものと帰参者募集の上に精一杯つとめさせて頂いております 特に今年は全隊帰参を果たすべく特別便として三つのコースを設け実施させて頂きますので 一人でも多くの子供さんをおちばへお引き寄せ下さると共に 事故怪我等の無いようお連れ通りの程をお願い申し上げます 又夏休みに入った子供達の絶好の声掛けの句でございます 英語講習会 学生生徒修養会高校の部 教会での月次祭 お泊まり会 キャンプ研修会 てっちゃんシアター等への参加呼びかけをすると共に 親へも参加する事の大切さを説いて道の後継者へと育つよう丹精させて頂く所存でございます

何卒親神様には 旬の理を生かし旬にふさわしい成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り 救けられた喜びから御恩報じを願う人を次々とこの道にお引き寄せ下さいまして たすけ 一条に勇みたつ賑やかな教祖百三十年祭を迎えさせて頂けますよう御守護お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

II 教会指令 II

◎任命願

弥高山 分教会

\*前任 岡崎 和夫

\*新任 岡崎 治喜



岡崎治喜氏

☆奉告祭 立教178年10月18日

立教178年7月26日承認

◎本部食堂ひのきしん

自 立教178年7月16日

至 立教178年7月20日

ひろさと 浅野 明 教

自 立教178年7月20日

至 立教178年7月25日

島 中 内海 純 子

自 立教178年7月26日

至 立教178年7月31日

神村 下田 真輝

◎こどもおぢばがえり

詰所受入ひのきしん

東ブロック	笠岡	岡崎佳夫
弥高山	岡崎豊子	
吸江	米山貞子	
西ブロック	大江橋	村川清治
神昭	渡邊隆夫	
福山ブロック	福中	小寺敏子
福富士	藤井正仁	
高屋ブロック	稲倉	藤井宏一
稲倉	中山妙子	
島根ブロック	照雲	雑賀元生
雲東	三代節生	
上府ブロック	吉舎	田邊克彦
吉舎	茨木文明	
甲井	山田敏教	
有志		
米府	見生美由紀	
甲井	山田信子	

※お詫びと訂正

本年6月21日発行の『かさおか第

54巻第6号』10ページ、同7月21日発行の『かさおか第54巻第7号』8ページに掲載の「稿案・天理教笠岡大教会史年表」に次の通り誤記がありましたので訂正いたします。

23ページ10行目「かんぜん」↓「完全」、同最終行「を分載」↓「分載」、24ページ「講習会」↓「講習会」、26ページ3行目「アタコ」↓「アヤコ」、同9行目「十六日」↓「十六日」、同14行目「十四番値」↓「十四番地」、同17行目「肥薩」↓「久津」、  
「芸備」↓「藝備」、以上8ヶ所。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

なお、今月は、紙面の都合で、「稿案・天理教笠岡大教会史年表」を掲載しておりません。



おぢばは、ふところすまい！と、お聞かせ頂きます。「こどもおぢばがえり」が開催されて、何処其処で賑や

かであります。小学校6年生の男児が「昼食」のあと、急に気分が悪くなり、我慢出来ずに付添いの「お祖母ちゃん」に訴えて居ます。周囲の者が心配して「おさづけの理」を取り次がれていきます。添い願いをしながら、よく見ると、吐き気が有るのもう動けません。我慢出来ずに、ついには泣き出す始末です。

隊には、予定の行動へ進んでもらい、救護所へつと思っていたら、食堂に居られた「看護師」さんが、見て下さると云うのです。

部屋に運んで行き、首筋や額を冷やして、私も扇子で風を送っていましたら、何やら、優しい声で「しんどのいかあ、大丈夫やでえ」と声を掛けてくださるのです。ふとお顔を見ると、笠岡大教会の奥様がお出で下さったのです。挨拶して事の由を申し上げましたら「ああ・・・そうや、教祖のハツタイコを戴かせて上げましょう」と、御自分の大切な物を、私の手に載せて、男児に戴かせて下さいました。やがて・・・吐き気の、えづきが止まりました。これは不思議です！でも、これ以降は行事には到底参加できないと判断して、笠岡詰所から迎えに来て頂

く事に成りました。男児は歩く事が出来ない状況なので、私がおぶって二階から下の道路の交差点まで移動しました。

教祖は、男児に奥様と廻り合わせ、不思議なおたすけを頂いたのです。男児にとっては、多分？奥様の声は優しく、まるで教祖のような声で有ったに違いないと私は思うのであります。おぢばだからこそ、奥様に廻り合えたのです。見るも因縁、世話するは尚の事！と仰せです。男児の朝からの行動に起因はあるにせよ、矢張り！「おたすけをしなさい」と、私にお仕込み戴いたように思いました。

戻着の翌日、男児と母親、お祖母ちゃん、わざわぎ御礼に見えられて、朝取れの新鮮そのものの「大きなアジ」を沢山頂きました。初めて味わった美味しい「それも、ハツタイコ」の御利益かも知れませんね。

ありがとうございました。(西)

